

日本が設立した外地銀行の歴史により、
日本の植民地支配の実態を探る。

日本 外地銀行史 資料

全6巻 広瀬順皓 編



クレス出版

駿河台大学教授

広瀬順皓

近代日本の歴史は、一面において戦争と侵略の歴史でもあった。明治八年の台湾征討に始まり、明治一〇年代の二度にわたる京城事変といった小競り合いの後、日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦と戦争がほぼ十年ごとに起り、昭和九年の満州事変以後、日本は一五年にわたるアジア太平洋戦争に突入した。明治九年、軍事力を背景に日本が日朝修好条規を締結すると、犬養毅等改進黨員は「朝鮮の内事に干渉して以てこれを併略することを務むべし」とい、台湾領有にあたって第二代台湾総督桂太郎が「今台湾を立脚の地となし、アモイの港門より我が勢力を南清に注入し、他日南清の一带は恰も朝鮮半島のごとくならしむ」とのべたように、日本は南進と北進を試みてきた。

これらは単に軍事力だけによってなされたわけではない。さまざまな植民地統治政策を進行するために多くのヒトとカネとモノとが投入されたが、その代表的機関としてまず挙げられるのが台湾銀行・朝鮮銀行など植民地ごとに置かれた中央銀行であり、日本資本によって設立されたさまざまな金融機関である。本資料集ではそれを一括してそれらを「外地銀行」と呼ぶことにする。これらの銀行は、特に中央銀行の役割をになう台湾銀行や朝鮮銀行は、植民地経営の戦略重要拠点として位置付けられていた。明治三二年に創設された台湾銀行は、敗戦時には、台湾一七店、中国三五店、南洋二〇店、フィリピン九店の支店網を持つ東南アジア有数の銀行となっていたし、朝鮮銀行の支店網は、朝鮮二五店、満州二六店、シベリア八店、中国四〇店という規模であった。もちろん日本が満州国を独立させると、直ちに満州中央銀行が設立されたのはいうまでもない。しかし、こうした銀行が具体的にどのような活動をしたのか、日本の植民地支配体制の中でいかなる地位を占めたのかについては、従来余り知られていなかったといえる。敢えてここに『日本外地銀行史資料』の刊行を企画した所以である。

目次

朝鮮編

第一章 総説…………… 六

第一節 朝鮮経済の変貌…………… 六
満洲国独立の朝鮮経済に及ぼした影響、農工併進政策と食糧増産

第二節 朝鮮の財政…………… 六
朝鮮総督府特別会計の地位、朝鮮総督府特別会計の特質

第三節 戦時金融統制へ…………… 一〇三
朝鮮における金融機関

第四節 朝鮮金融の特質と発券制度…………… 一〇三
発券制度の改正、改正の動機と目的、通貨拡張の抑制と貯蓄増強、国債の消化と朝鮮生産拡充

第五節 小額仕払手形…………… 一一二
小額仕払手形

第六節 国庫事務取扱いの変遷…………… 一一三

朝鮮編

第一章 総説

第一節 朝鮮経済の変貌

満洲国独立の朝鮮経済に及ぼした影響 朝鮮経済は併合後伝統的に、農業本位に経済構造の基調が置かれていた。それは、昭和七年の朝鮮総督府年報によるも、総戸数の八割は農家であり、全生産額の五割八分が農産品で占めていたという事実からもその概要が会得されると思う。しかも、農業生産全額中、その四割八分内外が米で、その米の内、また四割八分（昭和八年）が貿易上内地への移出にあてられていた。ところが、朝鮮農家の一戸当りの耕作面積は内地と殆ど変わらないのに、一戸当りの収穫高は内地農家の約二分の一に過ぎないという低いものであった。その主たる原因は農家の七割八分が小作農で、収穫の五、六割が小作料として取られる外に、生活費や種子、肥料、農具等の買入のための借金に対する利子が明治四十四年十一月の利息制限令があつたにも拘らず、三割以上の高利を地主階級から収奪されていたのである。その上、概ね三年間の内二年は旱水害に見舞われるという悪条件から免かれることが出来なかつた。それが、李朝末期以来、敢て怪しむところもなく久しきにわたり続けられて来た朝鮮経済の実態であつた。

この状況を黙視すべきでないとして、「農村振興運動」を提唱し、統治方針の重点をこゝに指向したのが宇垣総督であつた。同総督は「如何にこれが旧来の陋習であり、自他共に怪まざる伝統的農村の姿であるとはいへ、……………この多数の恵まれざる農民の存在は正さしく朝鮮統治の一大憂患であつて、その生活の安定と向上とを放任しては、朝鮮の開発は断じて望み得ない。その対策は統治上最先最急の要諦であり、且つその根幹をなすものでなければなら

全巻内容一覧

第1巻

台湾銀行十年志（明治43年6月）

設立、政府の保護、開業、資本金及積立金、台湾銀行券の発行及流通、台湾幣制改正始末、預金及貸出金、政府貸上金、本島重要物産に対する放資、金利の低減、本行以外の金融機関、金山資金貸出と金塊買収、大租権補償公債の処理、国庫債権の募集及其の応募、勸業銀行代理事務、国庫事務、所有物買入償却及売却高、重役及使用人の異動、附録（台湾銀行券保証発行拡張及資本金増加始末、台湾銀行法、株式会社台湾銀行定款）

台湾銀行二十年誌（大正8年6月）

台湾の開発と台湾銀行（始政当時の経済界、台湾銀行の設立、台湾の幣制、大租権補償、財政と国庫、台湾経済界の発達、金融）本行業務の伸長及成績（内国関係、外国関係、本行の事績）本行の内部関係、附録（台湾銀行法、台湾銀行補助法、株式会社台湾銀行定款、台湾銀行毎期末営業対照表）

第2巻

台湾銀行四十年誌（昭和14年8月）

総説、設立及開業、組織、業務、台湾に於ける業績、内地及海外に於ける業績、昭和金融恐慌と本行、支那事変と本行、附録（台湾銀行年表、台湾銀行法、台湾銀行補助法、台湾銀行定款、参考計表）

第3巻

第一銀行五十年小史（大正15年8月）

第一国立銀行の設立、第一国立銀行の沿革、株式会社第一銀行の沿革、国立銀行紙幣の始末、朝鮮に於ける事業、支店の開業、資本金の増減、役員の変遷、附録（洪沢子爵の演説、大震災後の概況）

朝鮮銀行二十五年史（昭和9年12月）

朝鮮及満洲の経済発展（朝鮮に於ける経済界の発展、満洲に於ける経済界の発達）朝鮮銀行の業務と其の実績（朝鮮に於ける業務の推移、満洲に於ける業務の進展、内地及海外に於ける業務の状態、営業の成績）朝鮮銀行の組織、附録（朝鮮銀行年表、朝鮮銀行法、朝鮮銀行定款、第五十期末貸借対照表）

第4巻

朝鮮銀行略史（昭和35年6月）

概述編（創業の沿革、当行三十六年の歩み）朝鮮編（総説、朝鮮経済の躍進とその過程、当行業態の変遷、終戦前後の方針と対策、終戦前後の各店の場合、終戦下の京城本部）満洲編（当行と満洲との関係、満洲国の中央銀行、当行在満三年半の経済概況、新京事務所設立より引揚げまで）関東州編（総説、満洲経済概況と当行業績）中国編（日華事変と華北経済工作、華北経済の緊迫と当行の役割、華中における法幣との経済戦、当行の業績にみる華北華中経済、在華各店の最後の姿）内地編（内地に於ける朝鮮銀行、戦時経済下における当行の任務、戦時下における金融情勢）発展解消編（閉鎖機関指定後の当行、清算終了に伴う諸施策）附録（朝鮮銀行職員表、朝鮮銀行年表、朝鮮銀行法、朝鮮銀行定款）

第5巻

満洲中央銀行十年史（康德9年6月）

建国前の満洲金融通貨事情と本行の創立、本邦経済金融界の推移と本行の発展、本行の組織、本行業務の変遷及現況、本行受託事務概況、要約 満洲経済金融界の発展に対する本行の貢献、附録（満洲中央銀行年誌、各期株主総会に於ける総裁演説要旨、定款及関係法令、参考諸統計表）

第6巻

鮮満経済十年史（大正8年12月）

韓国時代の財政及金融、併合後の朝鮮、満洲及東部内蒙古、朝鮮銀行の発達及其現況、附録（朝鮮銀行十年抄志）

日本外地銀行史資料

広瀬順皓 編

A5判／上製函入クロス装 全6巻 揃定価95,000円(税別)

2002年5月刊 ISBN4-87733-136-0(セット)

- 第1巻 台湾銀行十年志、台湾銀行二十年誌
- 第2巻 台湾銀行四十年誌
- 第3巻 第一銀行五十年小史、朝鮮銀行二十五年史
- 第4巻 朝鮮銀行略史
- 第5巻 満洲中央銀行十年史
- 第6巻 鮮満経済十年史

クレス出版好評既刊書

朝鮮総督府施政年報

全30巻 朝鮮総督府編 広瀬順皓解説

明治39年韓国統監府が設置されて以来、明治43年の日韓併合をへて昭和16年版まで刊行された日本の朝鮮統治の年次報告書。行政、司法、治安、財政、金融、交通、産業、教育等各分野を網羅し、日本の朝鮮支配研究の基礎史料の一つである。

揃定価380,000円 ISBN4-906330-37-1,38-X,39-8,40-1

満洲誌草稿

全15巻 関東都督府陸軍經理部編 安富歩解説

明治39年より同44年に至る実地調査報告に基づく膨大かつ詳細な秘密資料。豊富な数量データを表や図で示し、図版や写真も多数収載。

第一輯 一般誌全4巻、第二輯 満洲地方誌(奉天省、吉林省、黒龍江省)全7巻、第三輯 接壤地方誌全3巻、附録 全1巻

揃定価298,000円 ISBN4-87733-114-X(セット)

増補朝鮮総督府三十年史

全3巻 朝鮮総督府編

朝鮮総督府の施政を歴代総督毎に分けて詳細に記述し、日本の朝鮮支配四十年を通覧する第一級史料。「施政方針」「財政」「産業」と続く各項目は、当該時期の朝鮮統治を簡潔に物語り、日本の朝鮮植民地支配研究の辞書代わりにも利用できるレファレンス・ブック。

揃定価36,000円 ISBN4-87733-062-X

満州国現勢

全9巻 満州国通信社編 井村哲郎解説

建国から康德10年版まで刊行された、満州国に関する基本的な事項の変遷を調べるために有用な年鑑。満州国の特記すべき事績、中央行政統治機構の概説と主要官僚の略歴等を詳細に記述し、年表、主要統計も掲げている。満州国をめぐる内外情勢に関する解説もある。

揃定価250,000円 ISBN4-87733-100-X,101-8

朝鮮満蒙地誌叢書

全3巻 朝鮮及満州社編

大正7年に刊行された『朝鮮及満蒙叢書』を底本とする朝鮮・満州・シベリアの貴重文献。日本近代史、東アジア近代史研究必備書。

朝鮮地誌 定価26,000円 ISBN4-87733-081-X

満州地誌 定価16,000円 ISBN4-87733-082-8

西比利亞地誌 定価8,000円 ISBN4-87733-083-6

拓務省 拓務統計

全4巻 拓務大臣官房文書課編 広瀬順皓解説

昭和4年に外地統治の中央機関として設立された拓務省の管轄地、朝鮮総督府、台湾総督府、関東庁、樺太庁及び南洋庁の昭和5年から同16年の統計書。人口、司法、教育、宗教、衛生、財産、産業などの基本統計のほかに、移民及び海外拓殖事業に関する統計も収録。

揃定価98,000円 ISBN4-87733-102-6

朝鮮近代史料研究

全9巻 財団法人友邦協会編 橋谷弘解説

朝鮮総督府高官らに植民地支配の実態を聞き、録音したテープの中から厳選して活字化した『友邦シリーズ』30冊を内容別に編纂。総督府の予算を編成した財務局長の水田直昌の朝鮮近代財政に関する事や、『朝鮮ノ小作慣行』の主任事務官であった塩田正洪などの収録。

揃定価200,000円 ISBN4-87733-120-4(セット)

閉鎖機関とその特殊清算

全3巻 閉鎖機関整理委員会編 村上勝彦解説

1945年の日本敗戦後に、GHQ指令およびそれに基づく国内法令によって閉鎖・解散させられ、その後清算処理を受けた会社・組合・団体等の敗戦直前の状況を具体的数値を使い詳細に伝える。GHQの占領政策、経済侵略機関、統制機関の活動実態を明らかにする。

揃定価72,000円 ISBN4-87733-099-2

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎(03)3808-1821 ㊚(03)3808-1822 <http://www.kress-jp-com/>



株式会社クレス出版